

アメリカ・カーター・センターの劉亜偉教授が 本学で国際座談会と公開講演を行いました

2026 年 7 月 13 日から 15 日にかけて、アメリカ・カーター・センターの劉亜偉教授が本学を訪問しました。

滞在中、国際共同研究センター主催の国際座談会に参加したほか、法学部の講義で公開講演を行いました。

劉教授は、カーター・センターの中国担当シニア・アドバイザー（Senior Advisor for China）を務めています。また、外交問題評議会（Council on Foreign Relations：CFR）のメンバーでもあります。

「国際関係論」で公開講演

7 月 13 日午前、法学部の「国際関係論」の講義で、「カーター大統領と米中関係の発展」をテーマに公開講演を行いました。

講演では、ジミー・カーター政権期の米中国交正常化を中心に取り上げました。

1970 年代初頭の国際情勢や米中関係の変化に触れ、1972 年のニクソン大統領訪中から、1979 年の米中国交正常化に至る経緯について説明しました。

さらに、国交正常化後の米中関係にも触れ、両国関係がどのように変化してきたのかを解説しました。



国際共同研究センターで国際座談会

7月14日午後には、国際共同研究センター主催の国際座談会に参加しました。

「米中両国の建設的な戦略的安定関係の構築について」をテーマに報告を行いました。

報告では、まず、中国の歴代指導者による対米外交の変化について説明しました。

毛沢東時代には、1970年代初頭の国際情勢の変化を背景に、対ソ連戦略の観点から対米関係の改善が進められました。1972年には、ニクソン大統領が中国を訪問しました。

鄧小平時代には、1979年の米中国交正常化後、改革開放政策を進める中で、対米関係の安定が重視されました。

習近平政権については、首脳外交を重視する姿勢を取り上げ、オバマ、トランプ、バイデン各政権との首脳外交について説明しました。

続いて、中国国民の外交意識について解説しました。

カーター・センター、清華大学、中国社会科学院などによる世論調査を紹介し、中国国民の国際社会に対する認識や、グローバル化、国際秩序などに対する意識について説明しました。

台湾問題についても取り上げ、中国国内の世論調査をもとに、中国国民の認識について解説しました。

さらに、近年の米中関係について説明しました。

AIや半導体などの先端技術をめぐる競争をはじめ、アメリカによる輸出管理や技術規制などについて取り上げました。

また、2026年5月の米中首脳会談にも触れ、両国関係の安定に向けた首脳外交について説明しました。

報告後には、参加者との質疑応答が行われました。

中国外交の基本理念、米中戦略競争、台湾問題、国際秩序などをめぐり、活発な意見交換が行われました。



「現代中国の政治」で公開講演

7月15日午前には、法学部の「現代中国の政治」の講義で、「Navigating U.S.–China Rivalry & Examining the Role of Japan — 中美対立と日本の役割」をテーマに公開講演を行いました。

講演では、2013年の習近平政権発足以降の米中関係を中心に取り上げました。

米中間の戦略競争の変化について説明したほか、日中関係にも言及しました。

さらに、米中関係をめぐる日本の立場にも触れ、日米中三角関係の現状と今後の展望について解説しました。

今回の訪問では、米中関係の歴史や中国の外交政策、台湾問題、先端技術をめぐる米中競争など、現在の国際情勢に関わるさまざまなテーマについて講演と意見交換が行われました。

法学部の講義や国際共同研究センターの国際座談会を通じて、学生や研究者が米中関係と東アジアの国際情勢について学ぶ機会となりました。

